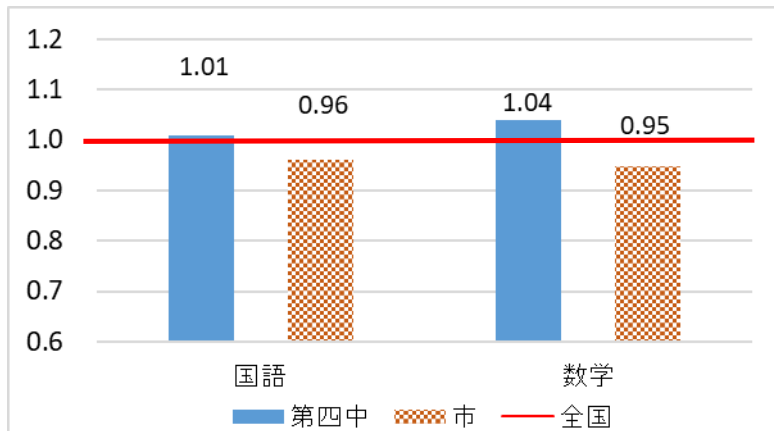


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第四中学校区 第四中学校

第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

正答率は全国平均を上回った。特に「読む能力」に強みがあった。しかし、自らの考えを述べたり、なぜそのように考えたかの理由を書いたりする設問に課題が見られた。学習活動の中で、文章を正確に捉え考えて記述する機会を多く設定して、改善を図っていく。

【数学】

正答率は全国平均を上回った。中でも「数学的な技能」の観点が特段に高い正答率だった。「数学的な技能」の観点の主なものである計算問題が正確に解けていた。一方、設問の内容を的確に捉え、自ら判断してその理由を数学的に説明するような記述式の設問には課題があった。学習活動の中で、「なぜそのように考えたのか」というように自らの判断の根拠に着目させる機会を設けて、改善を図っていく。

【質問紙調査】

「学校で、ICT 機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度活用していますか」の質問で、「ほぼ毎日」または「週1回以上」と回答した生徒の割合が全国平均よりも18.6ポイント高かった。タブレット端末が授業で有効に活用されていることが数値上でも検証できた。今後も教科の授業や道徳・総合・特活など教育活動全般で効果的な活用法を研究し、実践していく。

○学力向上の取組

【中学校区】

以下の取組を通して、9年間の段差のない、絶え間のない学力向上を目指す。

- ・ディベート教育を通して、学力の礎となる考える力を育む。
- ・小中一貫推進委員会を概ね2ヶ月に1回、小中一貫学力部会を年5回程度行う。
- ・小中合同で研究授業や夏季研修会を行う。
- ・NET・英語科教員・英語教育推進委員の交流を進め、英語科及び国際コミュニケーション科の授業改善を進める。
- ・学力テストの結果分析を持ち寄り、共通の課題を見つけ、学力部会で改善策を検討する。
- ・小学校卒業時に、中学校入学時に回収する春季休業中の宿題を小中学校で連携して作成する。

【学校】

①学習内容の完全習得を目指して、以下の取組を行っている。

- ・少人数習熟度別学習（2・3年の数学・英語各週1時間1クラス3分割）で、1クラス約10人の教員が関わり、理解度に応じて学習内容の定着を図る。
- ・1年生の数学で演習の時間（週1時間）を設定して、約5人の教員が関わり、基礎基本の確実な定着を図る。
- ・形成テストの補習を、毎週水曜日放課後に実施し、基礎基本の授業内容を完全に習得させる。

②今年度から5教科の授業開始時に、5分間で完結する小テスト（主に前時の復習）を実施しており、各教科の学力向上に結びつけている。加えて、小テスト対策のための勉強が、家庭での学習の呼び水になる効果も期待できると考えている。